

第13回美しい中部のみなとまちづくりフォーラムを開催 テーマは「船」と「みなと」の新たな魅力発見



伊藤三重大名誉教授

美しい中部のみなとまちづくりフォーラム実行委員会が、11月18日(午後1時すぎから、愛知県・名古屋市の名古屋港海会館第1会議室で、第13回美しい中部のみなとまちづくりフォーラムを開催した。テーマは『船』と『みなと』の



糸川コスタ支社長



中村名鉄観光CA



坂本名古屋名港課長

たな魅力発見』である。一般市民、港湾関係者合わせて約百名が参加した。美しい中部のみなとまちづくりフォーラム実行委員会は、国土交通省中部地方整備局名古屋港管理組合、名古屋市、名古屋商工会議所、都市環境マネジメントで構成する。



美しい中部のみなとまちづくりフォーラムの様相

同フォーラムは、「みなと」を核に地域振興を図る利用者主体の「みなとまちづくり」に取り組んでいる。また、地域資産の有効活用、人モノの交流活性化、観光振興のための方策などについて、講演や参加者間での議論を毎年開催している。はじめに、伊藤達雄三重

大学名誉教授が「かつての高度成長期には、みなとはものづくりの中心で、危険物がたくさんあり立ち入り禁止で、海の水は汚れていました。最近では、みなとは公園のようにきれいになり、水も澄んできました。国がインバウンド政策を進めています。地域の資源として外国からたくさんのお客様に来ていただき、地域振興につなげようとしています。今日は、行政の方、観光業の方、クルーズ船を運用している方3人の専門家に講義いただき、名古屋でこれからのような展望が開かれていくか、皆さまと一緒に勉強できれば大変うれしいと思ひます」と主催者を代表してあいさつした。



『コスタネオロマンチカ』名古屋港寄港の様相

坂本課長は「名古屋港をテーマに、にぎわいの拠点であるカーテンふ頭、金城ふ頭および中川運河を中心に、今後の魅力創出と展望についてお話しさせていただきました」とあいさつした。

坂本課長は「周辺を楽しみながら、港を楽しんでいただきたいと考えます。まちづくり協議会と連携しながら、みなとまちづくりを進めています」と講演を締めくくった。

続いて、中村巧名鉄観光サービス(株)中部営業本部クルーズアドバイザー(以下、CA)が、「クルーズの楽しみ方」と題して講演した。「皆さまには、クルーズのご経験があるかどうか分かりませんが、全体的なお話をさせていただきます」とあいさつした。

お客さまお喜びクルーズのアンケートで名古屋港の評価が高くと、同社は名古屋港に到着港としての機能と、寄港地としての機能を期待していると述べた。

糸川支社長は「名古屋でお客さまが乗下船できることで、もっと気軽に乗れる身近なクルーズを広げていきたいと思ひます。年間に何度も名古屋港に寄港できる『良い』と『考えたい』と講演をまとめた。

次に、糸川雄介コスタクルーズ日本支社長が「コスタクルーズで、あなたもクルーズしてみませんか?」と題して講演した。

中村CAは「肝心なことは、乗船することです。日本人は年配でも忙しので、クルーズに参加することをまず決めて、孫・犬・猫植木の世話は大丈夫、楽しんでいただきたと思ひます」と述べた。